

第6次総合計画策定に係る【東部（下）】地区懇談会 会議録

開催日・出席者等

開催日時 令和2年7月29日（水） 19時00分から20時00分まで
場 所 文化センター 3階ホール
出席者 竹節町長、健康福祉課長、観光商工課長、総務課長、企画係長、企画係員

会議事項・懇談内容

- 1 開会（健康福祉課長）
- 2 挨拶（竹節町長）
- 3 第6次山ノ内町総合計画について（企画係員）

懇 談

【発言】 懇談会参加者意見

【回答】 役場出席者意見

【発言1】

現状の内容を拝見して、大変よいものを作っていると感じる。

5年10年先に気づいて対策しても、手遅れになっていたんだろう。今から準備することは、大変重要なことだと思う。

私の地域でも昔は子どもの声がたくさん聞こえた。東小学校の近くが自宅なのだが、最近はその声より小学校で飼っている羊の声の方が聞こえる。

数年前に東日本大震災があり、被災した方は他市町村に転出されたわけだが、地元に戻れない理由として、村や町に戻っても産業自体がなくなってしまう、帰っても食べていけないからという報道を見て、非常に印象に残っている。子育ての関係の施策も大切だと思うが、結婚して子どもを育てるにはお金が必要なわけで、親が安定に勤められる仕事先が必要なのでは。生活のために必要な就職先がなくては、若者が定住していくのは難しいと感じる。

近所を見ても、町外勤めがほとんど。働く場所と住む場所が近い方がいいのは当たり前で、実家は町内にあるが、町外に家を建てて出てってしまうパターンが多い。結果、世帯は減っていないように見えるが、老人世帯ばかりになってしまっている。

新規就農なんかも必要だとは思いますが、町内での企業等の就職口が必要だと感じる。町の地形的に工場団地などの誘致は難しいとは思いますが、良い考えがすぐには思いつかないが…

かなり昔の話になるが、農協と町でそれぞれ20～30人ずつくらい毎年とっていた。そこに志賀高原観光開発やロープウェイ、北志賀などを合わせると100人くらいの就職口はあった。毎年それだけの人数が安定的に就職でき、結婚して家を建てて子どもを育てるといった、よい

循環だった気がする。現在は企業もなかなか苦しい状況なので、1つの方法として、町でたくさん職員をとっていただくのはどうか。町内の事業者も、町内からの雇用を促進するなど、町で生活できる体制をお願いしたい。

口で言うほど簡単なことではないと思うが、人口減少対策に関する所感を述べさせていただいた。

【発言2】

「未来に羽ばたく 夢と希望のある 健康な町」ということで、お題目は大変よいと感じている。

人口減少・少子高齢化は、本町の一番の問題であると感じた。資料のグラフを見て、ある一定の時期にくと更に加速度的に人口が減るのではという気がする。実際には、こんなもんじゃないかと人口が減っていくのではと危惧している。

せつかく10カ年計画を作るのであれば、もっと具体的な人口減少に対応した施策や目標をたててもらいたいという希望はある。

人口推計に関して、現実のデータとしては、お示しのとおり減っていくのだろうが、現状維持を目標としてほしい。思い切った目標を立てないと、人口どんどん減っていくんじゃないかと感じている。現在毎年200人減っている中で、150人は更に町外から連れてきて、50人は出産増で200人を補うとか、思い切った目標設定が必要ではないかと思うが。

新型コロナの影響で、リモートワークとかテレワークが社会現象になっている。この状況をうまく利用して、そういった就業形態の人を町内に引っ張ってくるような施策が必要ではないか。

観光と農業に関して、コロナの関係で現状は観光業への影響が大きいという状況だが、例えば、観光業者が農業に参入し、遊休荒廃地を復活させて農作物を作ってもらうのはどうか。作物は町が買い取って、町は野菜を「コロナの影響で観光事業者が作りました」という感じで全国的に売り出して、観光事業者への補助金に充てる。コロナが終息し観光事業者が本業に戻った際には、復活した農地をIターンなどの新規就農者へ提供するのはいかがでしょうか。

コロナ禍を逆手にとって、地方だからできることを考えながら進めていけば、こんな状況でも魅力ある町になるのではと考えている。

【回答2】

企画係は移住定住推進室も兼務しており、地域おこし協力隊もメンバーに入れながら、移住定住施策を実施している。

須賀川の元校長住宅を改修して、田舎暮らし体験住宅「須賀川んち」を運営して都会からの呼び込みを図っている。移住施策はすぐに効果がでてくるものではないが、そういった施設等を利用しながら、少しずつ町に興味をもつていただく方も増えてきている実感はある。コロナの関係もあって、東京の方からかなりの問い合わせがあり、現在もちよくちよくきている状況。コロナの当初は田舎に避難する的な思惑があったのかもしれないが、体験して町へ移住したいという意見も少しずつ増えているのが現状。

体験した方全て呼び込めるかといえばなかなか難しいが、少しでも多くの方に興味を持って

いただき、住んでいただけるように引き続き進めていきたい。

【回答 2-2】

貴重なご意見、ありがとうございます。

昔から本町は観光と農業を主産業としてきたが、それぞれが独立している状況が続いている。同じ町内で、観光と農業の連携を図れないかという課題がずっとある。

コロナの影響で旅館の従業員の仕事がなくなってしまい、国の雇用調整助成金などを使ってきたが、それだけでは雇用の継続は難しい状況になってきた。今まで両者の連携はなかなか難しかったが、この厳しい状況の中で J A と観光連盟が協力し、この時期に一番人手が欲しい農家と旅館の従業員のマッチングを行い、実際にお手伝いいただいている。

旅館の従業員は美味しい果物が町にあることは知っていても、なかなかお客さんに説明することが出来なかったが、今回実際体験してみて、こんな手間がかかって美味しいものができているとか伝えられるようになったという意見があった。観光と農業の連携を進めるうえで、よいきっかけになったのではないかと思う。

今回のコロナの件で旅館業の方は非常に危機感をもっていて、数名のグループ単位で農業に参入して自分で作った野菜を宿で出したいということで動き始めている。

コロナの影響が良い方向に動いてくれればと考えている。

【回答 2-3】

人口減少の関係について、日本の総人口が減っている中であって、高齢者の数は増えていた。若年層に加えて高齢者の人口減少が始まると、国が示すところの人口減少の最終段階に入ると言われています。資料 10 ページに将来人口推計を示していますが、令和 2 年までは高齢人口が増えていますが、これが減少に転じた地域は、急激な人口減少が始まるとされています。あまり絶望的な話ばかりではと思って詳しくは触れなかったが、現実としてはそういう状況。

総人口とともに問題視したのが高齢人口と 65 歳未満の生産人口で、将来人口推計では、高齢人口が生産人口を上回る予測となっている。団塊世代という大きな人口の塊が 70 歳を超える現在、死亡に伴う自然減少は止められない状況だが、若者の移住定住施策や出生数の増加などに取り組む中で、11 ページのグラフのとおり、人口が減少する中であっても高齢人口が生産人口を上回らないことがポイントであると考えている。

コロナを逆手にとってという部分、テレワークという新しい働き方について、千畳敷や八ヶ岳は報道もされており有名になっている。リゾートテレワークということで、志賀高原や渋温泉は適地だと思われるので、リゾートで働いて遊んで住んでいただくような仕組みを企画係では考えていきたいと思っている。

【発言 3】

私は保育園に勤めているので、10 年前と比べて人口が減ったなあと痛感している。子どもが毎年減っている中で、仕事なくなってしまうのではという危機感もある。

説明や質疑の内容について、参加している方はここで知ることができたと思うが、参加していない方は知らないままになってしまうのではないか。

山ノ内町はPRが下手だなと感じている。

町民が山ノ内町の良さをわかっていないと感じることがある。山ノ内町は良いところがいっぱいあるのに、もったいない。町民が実感できていないから、町の良さとかイベントとか若者への補助金とか、町外の人にアピールできないのではないかな。

息子が23歳になるが、結婚したら町に戻ってきてと言っている。若者が住む場所にしても、若者定住の家賃補助があると思うが、町民のほとんどは知らないのではないかな。

若者の定住に関して、若者向け住宅を造ってみてはどうか。若者であれば、中野でも長野でも、通勤はそんなに苦にならないと思う。住むところがあるから帰っておいでよと言えるような環境づくりが必要では。

町からの情報を町民みんなが共有できる仕組みを作ったらいいかな。

須賀川での話だが、これからはリモートで仕事ができるんだから、須賀川に住みながらでも十分仕事できるんじゃないかと。東京行くにも飯山駅だって遠くないわけだし。これからはそういう時代なんだと感じたし、時代に合わせて変わっていく必要があると感じた。

最近のコロナの問題、「Go To キャンペーン」が始まって、町でもたくさん県外ナンバーの車を見る。2週間後はどうなっているんだろうとかと不安がある。無症状感染者という話も聞く中で、非常に不安を感じている。感染拡大防止の対策についてどう考えているか。

【回答3】

若者定住支援や町外からの移住支援に関する補助金など、広報や町HPなどに掲載して周知していますが、他の会場でも、出ているのはわかっているけどPRが下手だよねと言われてる。色々な媒体があるので、多くの方に広く見ていただけるように、本日参加していない方にも伝えられるように、研究していきたいと考えている。

【回答3-2】

テレワークの関係、こういう時代なので、総務課でも必要性を十分に感じている。現在、新型コロナウイルス感染症の関係で注目されているが、実はそれ以前から取り組みを始めている。

首都圏の大企業2社に対して、町でテレワークオフィスの開設について提案したことがある。他の競合する地域もあり、残念ながら山ノ内町を選んでいただけなかったが、他の企業に対しても今後提案していくとともに、例えば施設の改修などを検討する中で前期基本計画に組み込んでいきたいと考えている。

住宅施策の関係、若者定住住宅という位置づけのものは、町にはないのが現状。近隣町村にはあったかと思うが、民間アパートが少なく行政が補っているという位置づけだったかと思う。山ノ内町の場合、アパートに住みたいという人たちが民間のアパートでほぼ間に合っている状況であると聞いていますが、その辺の調査を十分したうえで、もし足りないようであれば町としても考えていく必要があると思うし、住宅施策として基本計画の中に組み入れていく必要があると考えている。

感染症の関係については、町内にも感染者が出たことは皆さん周知のことと思いますが、感染症法という法律の中で、町が施策を講じていくという部分が法的にない。国や県が対策を講じていくということになっており、町としてできることは、国や長野県から要請があって初め

てできる内容がほとんど。町では何も対応しないのかという意見もいただいているが、法律上できないということがある。出来る限り国や県からの情報はいち早く提供していきます。保健所では濃厚接触者の判定はかなり厳密に行っていますので、感染の恐れがある方については14日間外に出ないようにと言われていますが、それ以外の方はほぼ大丈夫というのが保健所の考え方ようです。安心に繋がるかはわかりませんが、現状を参考までにお話させていただきます。

【回答3-3】

山ノ内町は町内向けのPRが下手ということは非常に感じている。観光商工課を中心に町外に対するプロモーションは頑張っているし、非常に得意。今回ご意見をいただいた町内向けのプロモーションは、町外へ人を出さないためにも必要ですし、今町内で育てている子どもが山ノ内町のいいところ、この町に自信と誇りをもって育ってくると、町外に出てもまた戻りたいと思ってもらえるのかなと考えている。具体的な方法はまだ考えているところですが、内向きのプロモーションの強化を考えていきたい。

【質問4】

中野市から嫁いで15年になるが、未だにちょっと住みにくさを感じている。買い物をするところが遠いことが一番大きい。嫁いで少しの間は川沿いにマツヤがあったがすぐ閉店してしまった。買い物するところや働くところが遠く、子どもが高校に通学するにも不便ということで町外へ出たほうが良いのではという話もあったが、夫は愛着のある山ノ内で暮らしたいということで、現在家を建てている。雪の多さも不安の1つではある。義母との同居になるが、不安なまま町に住んでいくことになる。お店をつくってほしいというのが一番の意見。

【回答4】

一番大きな問題として買い物をする場所がないということだが、約20年前まで大型スーパーが町内にあり、私も頻繁に利用していたが、大変有り難かった。しかし、民間の事業者ですので、利益がでなければ撤退というのがどこにでもある話かと思う。そこに町が補助・支援をしていくことがはたして妥当なのかということもあり、難しい部分がある。ただ、買い物をする場所がなくもいいということではなくて、例えばスーパーに関しても、町内から近い近隣の店舗へ買い物に行くにあたり、買い物支援策や交通の便などがあればいいのではと考えているので、検討させていただければと思う。

4 その他

SUGUメール登録のお願い（総務課長）

- ▶ 質疑等特になし

5 閉会（健康福祉課長）

以上